

知名度は低くても、一流企業がたくさんある

BtoBの企業を研究しよう

企業などの法人を相手に取引を行うBtoB企業。

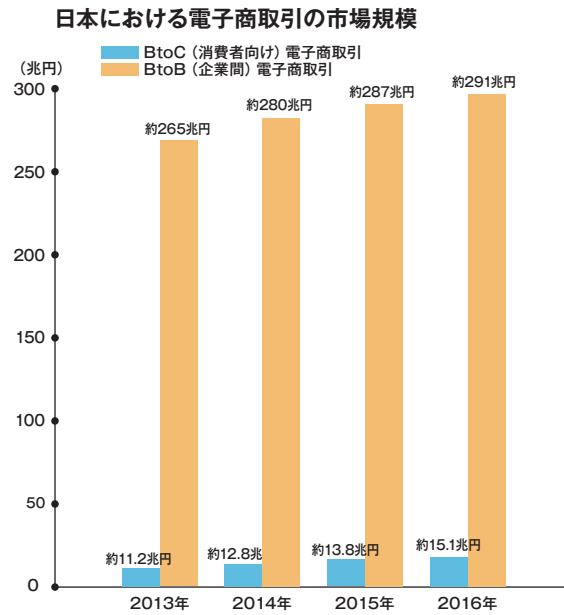
わたしたち一般消費者がその製品や技術を目にする機会は多くありませんが、世界で活躍するBtoB企業が日本には数多く存在します。

企業研究のポイントとともに、業界トップクラスの実績を持つ企業例を紹介します。

圧倒的に市場規模が大きいBtoBの取引

BtoB(Business to Business)とは企業間取引のことを指し、BtoC(Business to Consumer)とは企業対消費者の取引を指します。一般消費者が広告などで目にする商品・サービスは、一般消費者向けに作られたBtoCのものがほとんど。しかし世の中全体を見渡すと、市場規模が大きいのは圧倒的にBtoBの取引です。

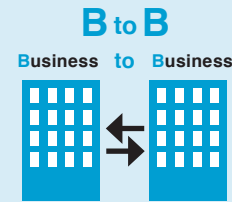
BtoB取引の市場規模の大きさを表す1つのデータが右のグラフです。この日本における電子商取引の市場規模を表したこのグラフを見て分かる通り、電子商取引の市場規模は圧倒的にBtoBの方が大きい状況です。企業間取引を行うBtoB企業は、日本の経済を支える重要な役割を担っていると考えるでしょう。



【出典】経済産業省「電子商取引に関する市場調査について」調査結果要旨 2017年4月公表

BtoB企業の特徴とは？

- ➡ 広く一般向けの消費者相手ではなく、取引先が比較的固定されている
- ➡ 研究開発力が成長を左右
- ➡ 技術力を武器に世界に進出し、高いシェアを誇る企業も多い



BtoB企業では、高額製品を販売したり、大量一括受注をしたりと、BtoC企業に比べて単価が高く、扱う金額も大きくなります。プラントエンジニアリングや産業用装置の製造などは国家プロジェクトとなるケースもあり、世界を舞台に

スケールの大きな仕事をすることもあるでしょう。事業のベースとなるのは技術力です。顧客企業のニーズに合わせた付加価値の高い製品やサービスを提供するために、多くの企業が研究開発に力を入れています。

「機械を作る機械」を製造 46カ国157の拠点から 世界中の製造業を支える

DMG森精機株式会社

- ➡ 世界トップシェア* (切削型工作機械売り上げ)
- ➡ 国内外157拠点でグローバルに展開



操作性・デザイン性を向上させた新デザインコンセプト機

*2016年度実績

ポンプ製造を主力事業として世界市場を開拓する荏原製作所は、風水力機械、半導体製造装置、環境プラントの3つの事業でグローバルなモノ作りを展開しています。主力のポンプは、上下水道、灌漑設備、排水設備、石油化学プラント、製鉄所、発電所などに幅広く使用されており、社会・産業の基盤として、人々の文化的な生活を支えています。

ポンプの回転技術を応用し開発したのが、半導体製造装置です。半導体を研磨するCMP装置はそのひとつで、世界的な企業の技術をサポートしています。環境プラント事業では、廃棄物処理技術、燃焼・ガス化技術を核に、環境・エネルギー関連のインフラ施設に関わっています。

世界をフィールドに、優れた技術と最良のサービスを提供し、高い性能と信頼性で社会を支え続ける産業機械メーカーです。

PROFILE

●創業/1912年 設立/1920年 ●資本金/787億円 ●本社/東京都大田区羽田旭町11-1 ●代表者/代表執行役社長 前田東 ●売上高/4,761億円 (2017年3月期・連結) ●従業員数/16,317名 (2017年3月現在・連結)

自動車をはじめとした様々な工業製品を製造するための機械である工作機械は「機械を作る機械」と呼ばれています。工作機械は製造業の基盤であり世の中にある全ての製品を生み出すために不可欠な機械です。

DMG森精機とドイツのDMG MORI AGは2015年から連結グループとなり、世界の切削型工作機械のトップメーカーとして、世界中のお客様の生産性の向上に資する工作機械の製造販売および金属加工の総合ソリューションを提供しています。10年・20年にわたり使用される当社の製品が常に最高のパフォーマンスを発揮できるよう、世界157の拠点を通じて、迅速な出張修理やパーツ発送などを世界均一で安定提供しています。

世界の生産現場ではより高精度・高効率化が求められています。当社はあらゆる課題に対して、製品・ソフトウェアの品質向上を通じ、最適な解決策を提案できる総合的なマシニング・ソリューション・プロバイダを目指し、世界の製造業の発展に貢献します。

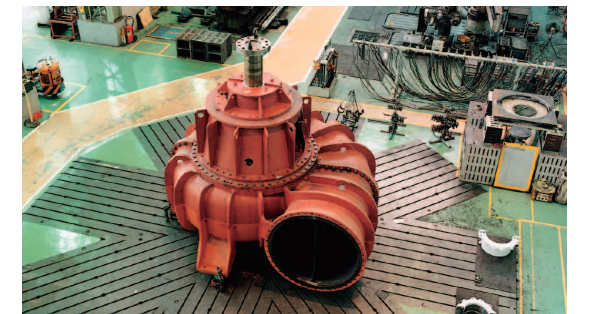
PROFILE

●設立/1948年 ●資本金/511億円 ●本社/愛知県名古屋市中村区名駅2丁目35番16号 ●代表者/森雅彦 ●売上高/3,766億円 (2016年12月期・連結) ●従業員数/12,307名 (2016年12月現在・連結) ●主要取引先/自動車、航空、機械、医療、金型、エネルギー、建機、エレクトロニクス

創業100年 世界の水インフラを支える

株式会社荏原製作所

- ➡ 世界トップレベルの技術力
- ➡ 売上の5割が海外 (23カ国に関係会社)



下水道、河川排水などに使われる立軸渦巻斜流ポンプ

「膜」の可能性は無限大 環境にやさしく快適な 空間をつくるテント屋

太陽工業株式会社

- ➡ 世界シェア7割* (大型膜構造物製造)
- ➡ 東京ドームの膜屋根を製作



聖地メディナの広場の日よけプロジェクト(サウジアラビア王国)

*2009年度実績

東京ドーム、埼玉スタジアム、東京駅グランルーフ、ユニバーサルシティ駅。これらは太陽工業が手がけた膜構造建築物のほんの一部です。

当社は大型膜構造物業界のパイオニアとして、世界シェア70%を誇り、世界最多の実績を持つリーディングカンパニーです。オリンピックやW杯の会場としても利用される国内外のスポーツ施設、商業施設、屋外施設、博覧会など大規模プロジェクトに多く関わっています。

膜(テント)は特殊な生地で、「軽い・明るい・強い」といった3つの特徴があります。コンクリートに比べ、軽くて安全性が高く、防災減災の面からも注目されています。

また、建設時のCO2排出量が少ないなど、地球にやさしい仕組み。当社の主力製品のほとんどがエコ製品で、地球環境改善にも貢献しています。

PROFILE

●設立/1947年 ●資本金/25億7,059万円 ●本社/大阪府大阪市淀川区木川東4-8-4(大阪)、東京都世田谷区池尻2-33-16(東京) ●代表者/代表取締役社長 荒木秀文 ●売上高/555億円(2016年12月現在・連結) ●従業員数/1,610名(2016年12月現在・連結) ●主要取引先/大手建設各社、官公庁 ほか

一国の社会・経済を 大きく変える プラントエンジニアリング

日揮株式会社(JGC CORPORATION)

- ➡ 海外売上80%以上(世界80カ国、2万件以上のプロジェクト)
- ➡ 受注額数千億円の巨大プロジェクト多数



ガスプラント(サウジアラビア)

日揮はこれまでに、アジア、中近東、アフリカなど様々な国でプラント建設をはじめとした国家プロジェクトに参画してきました。その数は、世界80カ国、2万件以上にのぼります。

エンジニアリング会社が手がけるプラントは、石油、ガスなどのエネルギー分野を中心に、医薬品、非鉄金属など、人々の経済や社会生活を支える生産施設です。特に巨大なエネルギープラントの建設は、資源国の経済発展を支えることになり、一方で周辺諸国のエネルギー政策や社会にも大きな影響を与える国家規模のビッグプロジェクトになります。

近年では、コア事業であるプラントエンジニアリング事業に加えて、電力、水、環境分野に対する投資事業も積極的に展開しています。当社では、プラント建設プロジェクトで培った豊富なプロジェクト・マネジメント力、エンジニアリング技術を駆使して、エネルギーやインフラ分野における、世界的な問題の解決に貢献しています。

PROFILE

●設立/1928年 ●資本金/235億1,118万円 ●本社/神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-1(横浜) ●代表者/代表取締役会長 佐藤雅之、代表取締役社長 石塚忠 ●売上高/6,931億5,200万円(2017年3月期・連結) ●従業員数/2,308名(2017年3月現在・単独) ●主要取引先/国営・民営の石油、ガス会社 ほか

TOWAのコア技術であるモールドイングとは、デジタル家電やスマートフォンなどに使われる半導体を、外部からの衝撃・温度・湿度などから守るために樹脂で覆い固める技術のこと。金型関連技術から始まった当社は、技術革新のスピードが速い半導体テクノロジーの分野で世界最先端の技術に取り組み、いまや半導体モールドイング装置のシェアで世界トップ*を誇ります。その高い技術力は半導体技術そのものの進化にも大きく貢献したといえるでしょう。

さらに、モールドイング技術を活かしてLED市場にも進出。「21世紀の照明」と言われる高成長市場で、LED素子とレンズを同時に成形する大量生産とコストダウンにつながる技術を開発しました。

また、カーエレクトロニクス市場にも参入し、小型軽量化、耐久性に優れた車載電子部品の製造装置を販売しており、ハイブリッドカーや電気自動車の普及に貢献しています。

海外売上げ比率80%以上*、半導体メーカーを支えるグローバル企業として独自技術の開発を進める注目の企業です。

PROFILE

●設立/1979年 ●資本金/89億3,262万円 ●本社/京都府京都市南区上鳥羽上調子町5番地 ●代表者/代表取締役社長 岡田博和 ●売上高/276億3,200万円(2017年3月期・連結) ●従業員数/457名(2017年3月現在・単独)

京都から世界へ! 世界に冠たるコア技術で “真価”に挑む

TOWA株式会社

- ➡ 「グローバルニッチトップ企業100選」選出
- ➡ 急成長するカーエレクトロニクス市場に進出



半導体製造装置「CPM1080」は【半導体・オブ・ザ・イヤー】グランプリを受賞
*2015年度実績

社名の「発条」とは「ばね」のこと。日本発条(ニッパツ)は世界トップのばねメーカーとして、あらゆる産業・製品に関わっています。当社の製品を直接目にする機会は少ないですが、社会に欠かすことのできない存在なのです。

例えば、車体を支え操縦安定性を高める懸架ばねでは世界ナンバーワン*を誇り、乗り心地の良さや省スペース化を追求した独創的な製品を開発しています。また、外径70μmと髪の毛よりも細い「超微細ばね」を開発し、近年、高密度・微細化が進む半導体や液晶パネルの検査で大きな役割を担っています。

高度なテクノロジーを使った研究開発の成果は、ばねにとどまらず様々な事業に応用されています。自動車用シート、機械式立体駐車装置、半導体検査装置部品などがその例。日常の場面から、エレクトロニクスや航空宇宙分野に至るまで、あらゆるフィールドで当社の技術が生かされています。

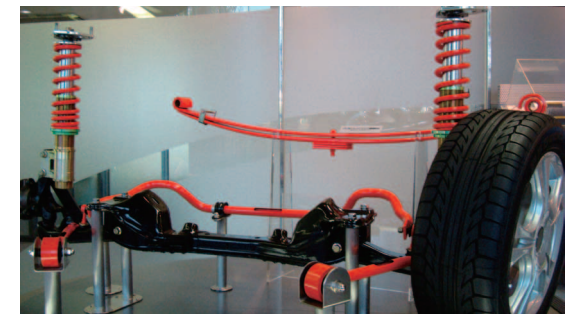
PROFILE

●設立/1939年 ●資本金/170億957万円 ●本社/神奈川県横浜市金沢区福浦3-10 ●代表者/代表取締役社長 茅本隆司 ●売上高/6,269億5,000万円(2017年3月期・連結) ●従業員数/20,560名(2017年3月期・連結・臨時従業員を含む) ●主要取引先/日系カーメーカー全社、主要通信機器メーカー ほか

高度なテクノロジーが 凝縮した「ばね」で 様々な産業を支える

日本発条株式会社

- ➡ 自動車用懸架ばね世界ナンバーワン*
- ➡ 世界各地に34のグループ会社



オレンジ色の部分が自動車用懸架ばね

*2016年度実績